

平成28年 10月 24日

豊明市議会議長 殿

行政等視察報告書

議員名 ふじえ 真理子

H28年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

年 月 日	視察先	視察項目及び成果等
H28年 10月 17日 (月)	市川市	P F I 事業について (学校施設複合化)
H28年 10月 18日 (火)	富士市	富士市・富士宮市情報指令センター について
H28年 10月 18日 (火)	菊川市	子ども議会・議会報告会について
H28年 10月 19日 (水)	島田市	図書館自動貸し出しシステム について

豊明市議事課
28.10.24
分類 . . . 30・10・5・1
可・否 一部否・一時否
第 622号 受付

(注) 別紙添付も可能とします。

(注) 本報告書は5年間公開します。

平成 28 年度 会派「新風とよあけ」行政視察報告書

10 月 17 日（月）～19 日（水）

報告者 ふじえ真理子

1 【千葉県市川市】 P F I 事業について（学校施設の複合化）

① 市川市はこんなところ

東京都に隣接する人口約 48 万人、面積は約 57 km²。教育文化機関が整備され古くから文教都市として発展。議員 42 人、議会事務局体制 19 人。財政力指数 1.0。

② 主な視察内容

- ・老朽化した第七中学校校舎建て替えに合わせ、学校の余裕部分の有効活用と、人口密集地が抱える課題解決、公共サービスの充実を図ろうと、P F I 手法で 6 つの施設（中学校校舎・給食室・文化ホール・ケアハウス・保育所・デイサービスセンター）を 1 棟に複合化、整備した（地上 5 階地下 1 階）。事業期間は H15～H32。
- ・P F I 手法の活用で民間事業者から出された具体的な提案
 - 1) 周辺の街並景観に配慮した施設の実現（8 階→5 階に変更）
 - 2) 施設設計面の工夫によるランニングコスト削減（避難階段の共有化など）
 - 3) 事業コストの削減←市が想定した総事業費と比べ約 26%削減
 - 4) 多様な年代の「ふれあい交流」が実現←校舎屋上庭園・ランチルームなど
- ・2 つの P F I（→国からの補助金もらいやすかったため）事業に分離して実施
 - 1…市川七中行徳ふれあい施設株式会社…契約金額約 47 億円
→現時点では 49 億円（金利変動含む）にアップ
 - 2…社会福祉法人長寿の里…契約金額約 9.5 億円（→15 年間の賃料で相殺）
- ・中学生徒数 854 名、ケアハウス 50 室、デイサービス 25 人/日、保育園児 60 名
- ・10 億円を超える規模の大きな事業でこそ、P F I 手法を用いるメリットがある
- ・中学校とそれ以外の施設との境界には鉄の扉がありセキュリティ対策を講じている

③ 豊明市が参考にしたい点と課題

- ・本市において P F I 事業についての具体的研究検討がどこまでされているか不明であるが、民間事業者の創意工夫やノウハウを事業に反映していくことは必須の時代。数年前から導入し始めた指定管理者制度でも同じことが言えるが、事業者の選定基準を明確にすること、議会のチェック機能がきちんと働くこと、そのためにも行政側の情報公開度を可能な限り高めてほしいと思った。また、施設維持管理面でのコスト削減だけでなく想定外の事が起こったときの負担割合についても予め設定しておくことが大事。あくまで市民サービスの向上という視点で、未来に住む豊明市民にツケを残さない行政運営の一手法として、いろんな形での『公民連携』を進めていく仕組みづくりを後押ししていきたい。

2 【静岡県富士市】 富士市・富士宮市消防指令センターについて

① 富士市はこんなところ

地下水に恵まれた県下有数の工業都市で人口約 24 万人、面積約 244 km²。「竹取物語」の発祥地。議員 32 人、財政力指数 0.99。

② 主な視察内容

- ・生活圏と経済圏で深い関係がある富士市と富士宮市（合わせた人口 39 万人）の安全安心な暮らしを見守るため、H27 年 9 月から同指令センターを運用開始している。迅速に通報場所を特定でき、両市の全消防車両を一元管理、市災害対策本部との情報共有で総合的な対応が可能となっている。
- ・N e t 119 受信設備（事前登録要）…119 番通報は携帯電話よりも固定電話からかけた方が正確な位置情報を把握できる。
- ・現場映像伝送装置、消防用高所監視装置、W e b 情報共有システム
- ・消防団員実数…富士市（832 人）、富士宮市（740 人）。団員数の多さは合併前からの消防団組織がそのまま存続しているから
- ・指令事務のサポート室がある（通常は会議や訓練で使用）。代替施設が富士宮市に。
- ・スマホ写真をメールで送り地図上に貼り付けるシステムをH27年度から導入。災害対策本部としてスピーディな判断ができるよう日々検討を重ねている。
- ・被災者台帳を作成できるシステムの一つとして、今後、リアルタイムでの早い対応を目指している（画像伝送等）。
- ・2500 人いる職員のうち 1800 人から送られてくる画像を整理するのが手一杯であるため、職員以外（市民）からの画像送信はまだ。

③ 豊明市が参考にしたい点と課題

南は駿河湾（10 kmの海岸線）、多くの河川、富士山をはじめとする山々からなる両市の管轄区域 633 km²は、豊明・尾三地区 225 km²の管轄区域の 3 倍という広範囲であり防災減災の面から課題も多い。刻々と変わる災害時の状況把握をリアルタイムで交通整理していくには画像送信もこれからは当たり前になっていく。話は変わるが以前、一般質問で職員や市民が市内の道路危険箇所や不法投棄等を写真にとって画像を市へ送るシステム導入を提案したが進んでいる気配はない。位置情報が即座にわかり、画像で一次情報として瞬時に得られる利点を生かせれば、職員作業の効率化だけでなく、命に関わる案件にも寄与するのではないか。地区ごとに異なる住民ニーズに添えていくには、市民の利益につながると思えば新しいこと（機器）を「まずは試しにやってみる」姿勢で取り組んでいくべき。災害時の議会の役割は協議に入った段階だが縦割り行政に横串を指すのは議員の役目。行政を動かす一つの方法として、まずは議会が率先してやって見せることで説得力が増す場合もあるだろう。広域消防も目の前。近隣市町の議会との連携も日ごろからのコミュニケーションで強めていく必要がある。

3 【静岡県菊川市】 子ども議会・議会報告会について

① 菊川市はこんなところ

東に日本一の大茶園である牧之原台地、南に遠州灘を望む温暖な気候。人口約 4.6 万人、面積約 94 km²。議員 17 人、議会事務局体制 4 人。財政力指数 0.74。

② 主な視察内容

こども議会…市議会が主体となり今年 7/27（水）に初開催。対象は小 6 児童 17 名（各クラス代表 1 名ずつ）、4 グループに分かれ 1 人 5 分で「こんなまちにした
いな未来の菊川」をテーマに提言意見を登壇にて表明

＜役割分担＞市議会 →連絡調整、放映広報に関すること

教育委員会→こども議員の選考、送迎

市長部局 →講評、広報

議会報告会…今年で 8 年目。6 月中旬から 3 週間かけ 11 小学校区（夜間）＋全体区（昼間）に開催し、毎年合計 500 名ほどの参加者あり。4 班に分かれ（該当地区選出議員除く）＋心援班＋事務局職員 1 名で実施。3 月下旬から来年度に向けての企画委員会が準備開始。

政策討論会…＜流れ＞3 月に幹事会（5 人）でテーマを絞る→全議員から政策提案書の提出を求め、分野別に幹事会で仕分け→各議員 5 分以内で提案内容を発表→1 テーマにつき 3 つ選び 3 グループにわかれ意見交換→投票→精査し 9 月本会議終了後「政策提言書」を市長へ提出（来年度予算へ反映させるため）→12 月本会議終了後の全員協議会で執行部からの回答を座長が説明

③ 豊明市が参考にしたい点と課題

こども議会…傍聴席数を心配して広く市民に広報するのをやめたのはもったいないと思った。こども保険の必要性の有無については疑問が残る。予算をかけずに手作りバッチの作成（記念品）はアイデアとして参考になる。事前学習の有無について、学校の年間授業に組み込み、地方自治を学ぶ時期なども学校側と連携できるという。また議員の関わり方について、生身の議員が直接こどもたちとやりとりすることは意義あることだと思うため本市議会ではぜひ実施したい。いずれにしても、こども議会そもそもの趣旨（理念）を再度共有することも必要。こどもの権利条約の 4 つの柱のひとつにある 12 条「意見を表明する権利」を前提に、子どもを未来の有権者としてでなく今を生きる主体者としてみた子ども施策が必要だ。すなわち、こども議会が意見を表明する一つの場として保障されることが大事。以上のような考え方で、今後の本市でのこども議会開催に向けて当局の協力を得ながら、協議会の中で発言していきたい。

議会報告会…綿密な準備をし、進化し続けている姿勢を見習いたい。開催の告知方法については、各議員による学校等へのチラシ配布、自治連合会役員会へ出向いて協

力依頼、回覧チラシなどやれることは本市議会でもまだまだ工夫の余地がある。菊川市議会が今年初めての試みで実施した全体区（昼間）の場所の選定が、児童館併設のところであり、子どものいる若い世代が参加しやすい点も参考になった。

政策討論会…17人全議員が提案書を提出しているという。1年かけ党派党派を超え丁寧なプロセスを経て議会として1つの提言書を9月に提出していること。こうした「チーム議会」の風土ができていけば、今より定数削減も可能だと私は考える。

※議会に関しては、議会基本条例をベース（根拠）に一つ一つの事案に丁寧に取り組む姿勢を市民に見えるようにしていくことが大事であり、そのような共通認識をもつことがまず一歩だと思う。

委員会構成を毎年ではなく2年ごとに変えている点については、一度そのメリットデメリットを検証してみる価値があるように思えた。

菊川市議会が行なっている政策討論会は、私が以前から描いているひとつの理想像に近い。つまり、党派党派を超えて「チーム豊明市議会」として行政側に対峙していける、政策提案する議会に変わっていくには必ずこの壁を乗り越えなければならないと思っている。

先日参加した議運の視察報告書にも書いたが、「行政がF1レースのタイヤだとすれば、議会は自転車のタイヤ」、一人でも多くの議員がそう思えたならやるべきことは明白だと思う。

あくまで20人20色。ひとりよがりにならず、議員個々の特性を最大限引き出せて、議会の中で生かせるような議会風土をつくっていったらと思う。

4 【静岡県島田市】 図書館自動貸し出しシステムについて

① 島田市はこんなところ

大井川が市域を二分、人口9.8万人、面積約315km²。島田市緑茶化計画でPR。日本一長い木造歩道橋「蓬莱橋」。議員18人、議会事務局体制7人、財政力指数0.76。

② 主な視察内容

- ・島田駅前通りに面した中心市街地交流拠点施設でH24年9月にオープン。1階スーパー・2階図書館（一般）・3階図書館（児童）・4階こども館・5～10階マンションとなっている複合型施設。
- ・主な設備に、読書通帳機1台、盗難防止ゲート2台、除菌BOX、自動貸出機3台等
- ・開館時間：火～金は朝9時半～夜8時、土日祝は5時半まで
- ・市内に3館ある→すべて複合施設 3館合計資料数は約26万冊（閉架分も含む）
- ・読書通帳…銀行の預金通帳に似せたもので貸出日と資料名を機械に通すと印字され

る。子どもの読書推進を目的にH24年度から導入。通帳の交付状況は大人401名を含む3686名。通帳は1万冊（約290万円）作成。読書通帳機は5年間リースで約950万円。通帳には6社のスポンサー（25万円/社）。通帳満杯になるとオリジナル布製バックを今年3月まではプレゼント。普及策として学校の協力を得、小学2年生の見学時に通帳をつくってもらうようにしている（動機付け）。

- ・自動貸出システム導入…2台（一般フロア）1台（児童フロア）。利用率は14%ほど。貸出エラーの際の警報音が大きく注目されるのが嫌、などの理由でそれほど伸びない。2階と3階に分かれているため人員削減にはつながらず。窓口での会話を楽しみたい利用者も。
- ・雑誌スポンサー制度…企業団体から新刊雑誌を提供してもらう制度（本市でもすでに導入済み）。実績としてはスポンサー数36事業者、雑誌数62誌で52万円の経費がういた。企業パンフを置ける棚もあり。
- ・除菌BOXは、一般フロアではあまり使用されていない
- ・年間図書購入費は約3250万円（豊明市は約1400万円）
- ・盗難防止ゲートを設置（本にICタグ）したことで不明本が100冊→5冊に減った

③ 豊明市が参考にしたい点と課題

自動貸出機について、島田市ではわざわざ窓口の方を選ぶ人たちの理由の一つにカウンター越しに「職員とのコミュニケーションを楽しみにしているから」があるという。借りる本の名前を知られたくない人からすれば機械は便利。いろんな市民ニーズがある中、自動貸出機導入によるメリット（サービス面とコスト面）・デメリットを本市も検討する価値はあると思う。また機械を買ってもその配置場所も重要。

本市では将来の図書館像をどのように描いているのか現時点でみえてこない。自動貸し出しも読書通帳も目指す図書館のコンセプトに合致するのであればぜひ前向きに導入すべき検討課題だと思うが、明確な方向性が示されていない中、目の前の便利さや好奇心だけでの導入には賛成しかねる。

島田市は現在、第3次子どもの読書計画策定中だという。本市は第1次のみでその後は策定されておらず、子どもにとっての読書習慣の意義を重くとらえていないと言われても仕方ない。

本市はH31年度に窓口業務を民間に委託する方向性を出している。私はその前に、誰もがイメージしやすい図書館像を示した上で民間委託の検討を始めるべきだと思う。

<おわりに>

※3日間で4つの自治体を訪問視察する強行日程であったが、どの受け入れ先の自治体の方もこちら側が恐縮してしまうほど丁寧な対応していただきました。関係者のみなさま、ありがとうございました。